

一般社団法人 岩の力学連合会
平成 29 年度・第 2 回理事会 議事録

日時	平成 29 年 10 月 23 日 (月) 14:00~17:35	場所	資源・素材学会会議室
----	-----------------------------------	----	------------

理事会	理事長	新 孝一	○	理事	奥野 哲夫	○	理事	西村 強	●
	副理事長	岸田 潔	○	理事	清木 隆文	○	理事	芥川 真一	×
	幹事長	岡田 哲実	○	理事	森岡 宏之	○	理事	長田 昌彦	×
	理事	谷 和夫	○	理事	児玉 淳一	●	理事	下田 直之	○
	理事	小山 倫史	×	理事	伊藤 高敏	○	理事	横尾 敦	○
	理事	齋藤 禎二郎	○	理事	佐藤 晃	×	理事	高瀬 昭雄	○
	監事	西本 吉伸	○	監事	細野 高康	○			
	オブザーバー	清水 則一	○	オブザーバー	安原 英明	●	事務局	富田 明日香	○

敬称略順不同, ○: 出席, ×: 欠席, ●: スカイプ出席

配 付 資 料

資料番号	資 料	頁
資料 29-理 2-01	連合会役員名簿(H29-H30)	1
資料 29-理 2-02	第 1 回理事会 (書面会議) (6/17 締切) 議事録	2
資料 29-理 2-03	臨時理事会(6/30) 議事録	4
資料 29-理 2-04	第 2 回常任理事会(8/2) 議事録	5
資料 29-理 2-05	会員の入退会	10
資料 29-理 2-06	定款による理事会のアクション	12
資料 29-理 2-07	新理事長挨拶	15
資料 29-理 2-08	将来構想 2016	16
資料 29-理 2-09	活動スケジュール	24
資料 29-理 2-10	編集委員会報告	25
資料 29-理 2-11	電子ジャーナル委員会報告	29
資料 29-理 2-12	賞選考委員会報告	31
資料 29-理 2-13	ILC 委員会	34
資料 29-理 2-14	賛助会員特別会議	36
資料 29-理 2-15	連合会規則 17 条 (選任) の改定	49
資料 29-理 2-16	2017 ISRM Council Meeting, Asian Council Meeting 報告	50
資料 29-理 2-17	岩盤力学シンポジウムにおける特別講演	54
資料 29-理 2-18	国際シンポジウム Rock Dynamics	55
資料 29-理 2-19	国際シンポジウム YSRM	63
資料 29-理 2-20	トンネル工学会研究会講習会の協賛	78
資料 29-理 2-21	科学的特性マップ提示の御礼と今後の取組のご説明等について	82
資料 29-理 2-22	Hutchinson 記念講演者候補	84
資料 29-理 2-23	韓国 KSRM の ISRM Congress 2023 立候補支援要請	86
資料 29-理 2-24	外部 (TV 製作会社) からの岩に関する問い合わせ対応	98
資料 29-理 2-25	次期 ISRM 総裁立候補者 Jian Zhao 先生からの支援要請への対応	100
資料 29-理 2-26	将来構想のためのフリーディスカッション	102

【議 題】

1. 名簿の確認 資料 29-理 2-01
名簿の確認を行うとともに出席者による自己紹介を行った。
2. 第 1 回理事会 (5/31 書面会議) 議事録の承認* (岡田) 資料 29-理 2-02
修正なく議事録は承認された。
3. 臨時理事会 (6/30) 議事録の確認 資料 29-理 2-03

議事録を確認した。特に意見はなかった。

4. 第2回常任理事会(8/2)議事録の確認(岡田) 資料29-理2-04
議事録を確認した。特に意見はなかった。
5. 会員の入退会の承認*(岡田) 資料29-理2-05
平成29年8月2日~平成29年10月23日までの入退会状況が示され、正会員2名の入会と正会員1名の死亡による退会を承認した。
6. 平成29年度活動方針及び計画の確認(新,岡田) 資料29-理2-06~09
活動方針及び活動スケジュールの紹介があった。特に意見はなかった。
7. 委員会審議・報告事項
- 1) 編集委員会(谷) 資料29-理2-10
活動状況が報告された。この中で、文献リストの作成について以下の議論があった。
- C. 以前編集委員会では、関連文献をCD-ROMに収録して会員に配布していたが、その後、文献リストのみを作成するようになり、それも昨年からやめている。最近ではインターネットで文献検索できるので、編集委員会としては、負担も大きいので実施しなくてもよいのではないかというのが総論である。
- Q. 作業は負担と思うが、リストを作ることでトレンドが分かるかもしれない。リストは公開されているのか。
- A. Rock Netにある時期までは公開していたが、現在は公開はされていない。
- Q. 公開していない理由はあるのか。
- A. 定かではない。以前、リストがあるなら欲しいという人がおり、理事会としては会員サービスになるなら、リストは残した方がよいという意見があった。
- C. CD-ROMのさらに前は冊子だった。会員サービスという位置づけだったが、著作権の問題があった。やめると会員サービスがなくなってしまうので、リストだけ残すことになった。やめて困るという意見は聞かないし、ニュースの方を充実させれば、リストはなくてもよいのではないか。
- C. リストは貴重だと思うが、委員の負担との兼ね合いである。
- Q. リストは何年まで存在するのか。
- A. 昨年度から作成していない。
- C. 今現在、リストが公開されていない状態で意見もないし、リスト作成は中断し、会員に意見を聞いてみてはどうか。
- C. ニーズがないのならリストは不要ではないか。本当に必要なら別途リスト作成のための委員会を立ち上げてはどうか。
- C. 文献リストは、会員サービスに加え、構成4団体の連合会としての記録という意味があると思う。価値があるなら実施した方がよいが、ニーズがあるのかどうかは疑問である。
- Q. ニーズがあるかどうか調査したのか。
- A. CD-ROMがなくなってしまったことに対して、否定的な意見は一部あったと記憶している。
- C. 冊子、CD-ROMは賛助会員に対するサービスとしての位置づけが大きかったのではないかと思う。リストだけでサービスになるかどうかはわからない。
- C. リストの存続は、将来構想とも関係すると思う。検索のツールとして考えれば、今はインターネットで調べられるので意味がないと思う。
- C. リストに対して否定的な意見が多いが、関連する様々な学会のプログラム等がWEB上でまとめて公開されていれば便利だと思う。そのような情報があることを知らないので使っていなかったのではないだろうか。
- C. タイトルと著者だけを集める作業なら、それほど大変な作業ではないような気がするのでリストは残した方がよいと思う。将来構想では今後会員を増やそうとしているのに、今まで蓄積してきたコンテンツをなくしてしまうのは、将来構想に逆行しているように感じる。
- C. 容易に検索できる時代なので、リスト作成を編集委員の負担にしなくてもいいと思う。リストから抜けているものもあるので、真面目に調べる場合は、自分で調べた方がよい。編集委員の負担を考慮した方がよいと思う。
- C. 編集委員会としては、リスト作成を再開するなら昨年分から実施しなければならない。またリストを作成するのなら、公開しないと意味がない。
- C. 自分が参加・出席していない学会で、その年に何が発表されたかという情報を見られるのは価値があると思う。岩の力学連合会なら、各学会にリスト出してもらい権利もあるような気がするし、連合会として今後新たな企画を作るときにもトレンドの把握は大事である。

- C. 自分が入っていない学会の情報を見れることは連合会の会員のメリットと思う。文献リストではなく、参加報告のような形式で載せるのはどうか。ただし、委員の負担増になるかもしれない。あるいは逆に自分からフェイスブックに情報を書いてもらってはどうか。投稿しておけば、交流の場があり、学会に入るメリットになるのではないか。
- C. 今後の連合会の方向性として、新しい研究分野の創生も含めて、連合会に入れば岩に関する情報がすべてあるというのが望ましい。ただし、今の状況では、編集委員会としてもモチベーションが上がらないと思う。文献リストに関しては、目的を再定義し、会員のサービスになるものを新たに打ち出した方がよい。編集委員会におまかせではなく、将来構想の中で今後どうするかというのを決めるのがよい。

以上の議論を踏まえ、今期は編集委員会でリストの作成は実施せず、これまでのデータベースやリストを今後どのように活用・発展させていくかについては、将来構想の一環として理事会で議論することとなった。

岩の力学ニュースの原稿料については規則通りに支払うこととなった。

また、大西先生が **ISRM** のフェローになられた記事を次号に 1/2~1 頁程度で掲載し、執筆を小山先生に依頼することとなった。日本の **Best Performing National Group Award** 受賞についても次号に 1/2~1 頁程度で掲載し、執筆を新理事長に依頼することとなった。

さらに、会員より過去の岩の力学ニュースを **WEB** 上で見られるようにしてほしいという要望があることが紹介されたが、著作権の問題があり、今後、会員限定で公開する方法などを検討することとなった。

- 2) 国際技術委員会（横尾）
特に報告等はなかった。
- 3) 電子ジャーナル委員会（児玉） 資料 29-理 2-11
活動状況として、西日本岩盤工学シンポジウムで発表された論文をベースに特集号を企画していること等が報告された。これに対して以下の質疑があったが、異論はなかった。
Q. 特集号というのは、どのような形になるのか。
A. あるテーマを決めてそれに関係する原稿が出るのが望ましいが、現実的には難しいので西日本岩盤工学シンポジウムの発表で、よさそうな論文の執筆者に英文化を依頼する予定である。
- 4) Rock Net 委員会（小山）
特に報告等はなかった。
- 5) 連合会賞選考委員会（岸田） 資料 29-理 2-12
活動報告として、博士論文賞に 1 件の応募があったことが紹介された。特に質疑はなかった。
- 6) 総務委員会（岡田）
特に報告等はなかった。
- 7) ILC 委員会※（横尾） 資料 29-理 2-13
名簿を元に委員会の委員の選任を行い、承認された。また、活動方針と活動状況が報告された。特に質疑はなかった。
- 8) 賛助会員特別会議（奥野） 資料 29-理 2-14
活動状況および賛助会員特別会議を位置づけるための規則の改定案等が報告された。これに対して以下の質疑があった。
Q. 賛助会員の表彰制度に関して、他学会の賛助会員の表彰に係わった経験として、表彰の記念品の保管や会社への申請の面倒さから表彰されては困るという会社が数社あった。賛助会員の表彰はインセンティブにならない可能性があるのではないか。
A. いただいた意見を含めて次回の企画運営特別委員会で議論したい。
Q. 規則の変更に関して、31 条の追加により以降の条数が 1 つずれるため、他規則や細則等への影響をチェックしなければならない。条数を増やさない方法はないか。
A. 条数を加えず、現状の規則に記載の委員会に位置づけることは難しい。
C. 規則を変更せず、それより下の運用規則に位置づけることはできないか。

- C. 賛助会員特別会議は、運営企画特別委員会が主催する会議体と位置づけてもよいのではないか。
- A. 企画特別委員会の下に位置づけた場合、常設委員会とは異なると思う。
- C. 賛助会員特別会議を常設と位置づけるか、数年試して方向性を見極めてから位置づけるかによると思う。
- A. 基本的には常設としたいと考えている。ただし、規則の 21 条第 2 項に委員会は必要に応じて WG 等を設置することができるかと書いてあるので、運営するのは WG でもいいように思う。
- Q. 特別会議の位置づけをどこかに書いておくのことは大事だと思う。本日の理事会で出た意見を踏まえて、次回の運営企画特別委員会で、引き続き位置づけを議論しながら、委員会活動を進めてもらえないか。
- A. 承知した。杓子定規に考える必要はなく、流動的でよいのであれば委員会としてもやりやすい。
- C. 賛助会員特別会議を提案した側として、将来構想 2016（資料の 20 頁③）に記載の賛助会員特別会議（Presidential Group）は、理事長の元の諮問機関のように理事長に直接提言するというイメージで提案したものである。賛助会員特別会議で自由に議論していただいたことを理事長に投げかけていただき、それを理事長が三役と相談して理事会に諮るようなイメージを当初は考えていた。タスクフォースの中で会議の方向性が固まってきた段階で、常設委員会にしたらいいか、あるいは理事会の中にも賛助会員の方が入っているの、理事会に直接提言していく形のがよいのか等の位置づけについては、方向性が固まった次の段階で議論してはどうかということ将来構想委員会では議論していた。

以上の議論を踏まえ、賛助会員特別会議の位置づけや方向性については、規則の改定も含めて引き続き運営企画特別委員会および理事会で議論していくこととなった。

- 8. 規則の改定について※（新） 資料 29-理 2-15
規則の改定案が紹介され、特に意見はなく承認された。
- 9. ISRM Council Meeting の報告（清水） 資料 29-理 2-16
ISRM Council Meeting の概要が紹介され、以下の質疑があった。
 - Q. 定款の名称変更はどのようにするのか。
 - A. 定款については、監事の役員の任期についても変えたいと思っている。定款は登記しなくてはならないものなので、総会にかけなければならず、任期変更とあわせて名称変更についても正式な手続きで行いたい。
- 10. 岩盤力学シンポジウムにおける特別講演（新） 資料 29-理 2-17
特別講演の概要について紹介があった。特に質疑はなかった。
- 11. 国際シンポジウム Rock Dynamics について（清水） 資料 29-理 2-18
シンポジウムの概要、予算等について説明があり、以下の質疑があった。
 - Q. サミットというのは新しい概念のような気がするが、他にも例があるのか。
 - A. ないと思う。既に 3 回 Rock Dynamics の会議が行われたので、総括的な会議の意味と、開催地の万国津梁館は沖縄でサミットが開催された場所なので、それにも掛けている。
 - Q. 催しとして、サマリーみたいなメッセージを出すことも考えているのか。
 - A. アイダン先生が何か考えていると思う。
 - C. それなら新しいチャレンジを感じる。
 - C. 予算案については低めに見積もっておいた方がよい。
 - C. 学生は ISRM 会員の会費の 50% を超えないことになっているので、修正した方がよい。
 - C. P60 の ISRM への申請書に記載のとおり、予算については、JSRM で責任を持つ必要がある。
 - C. 基調講演（アジア会議）については、最近は旅費は出しておらず、謝礼金+登録料だけだと思う。
 - C. 支出に間接経費として全体の 5% 程度をとっておいた方がよい。
 - C. ARMS8 の決算書をひな形として使用した方がよい。

以上より、シンポジウム特別委員会のメンバー、全体の予算（シードマネー140万円）、ISRM の申請書については承認された。

- 12. 国際シンポジウム YSRM について（安原） 資料 29-理 2-19

シンポジウムの概要について説明があり、以下の質疑があった。

- C. 開催時期について、日本の大学の学期のはじまりである10月よりも12月の方がよい。
- C. 10月はブラジルの **ISRM Congress** と近い。10月は台風の影響を受ける可能性もある。
- Q. 若手用と一般用の2つのシンポジウムは、平行に開催されるのか、あるいは中では一緒に実施されるのか。
- A. 一般用の発表の件数が多ければ平行でもよいと思うが、発表に関してはそれほど多くないと思う。若手の会議だけだとシニアの人が参加しにくいので、参加しやすいように **YSRM** の後ろに一般用の会議名を付けている。
- Q. 若手の人が集まりやすいような行事があるといいと思う。
- A. 学生用の行事は予定している。

以上より、シンポジウムの開催日については、第2案の12月1週目の開催として、会議名については案の通りとすることとなった。シンポジウム特別委員会のメンバーや予算については、次回以降の理事会にて、企画書とともに議論することとなった。

また、会議に関する科研費の申請については清木先生と相談してから **JSRM** より申請することとなった。

- 13. トンネル工学研究会講習会の協賛について（横尾） 資料 29-理 2-20
トンネル工学研究会講習会の協賛について紹介があった。特に質疑はなかった。
- 14. 「科学的特性マップ提示の御礼と今後の取組のご説明等について」（新） 資料 29-理 2-21
本件の経緯の紹介があった。特に質疑はなかった。
- 15. Hutchinson 記念講演者の推薦について（新） 資料 29-理 2-22
Hutchinson 記念講演者の推薦依頼があり、電中研の野原さんが唯一の候補として紹介された。特に異論はなく承認された。
- 16. 韓国 **KSRM** の **ISRM Congress 2023** 立候補支援要請※（新） 資料 29-理 2-23
韓国 **KSRM** の **ISRM Congress 2023** 立候補の支援要請があり、要請を受ける方向で返事をしてよいか審議し、特に異論なく承認された。
- 17. その他
 - 1) 外部（TV 製作会社）からの岩に関する問い合わせ対応（新） 資料 29-理 2-24
問い合わせの経緯と対応が紹介された。
 - 2) 次期 **ISRM** 総裁立候補者 Jian Zhao 先生からの支援要請への対応（新） 資料 29-理 2-25
支援要請の経緯と対応が紹介された。
 - 3) 将来構想のためのフリーディスカッション（新） 資料 29-理 2-26
資料を基に、従来の岩盤力学の範疇ではないが、今後テーマになりそうなもの等について紹介された。本件については、今後も理事会の最後にフリーディスカッションすることとなった。
 - 4) その他
 - ・尾原先生が **ISRM** の **Testing Method** の委員を交代をしたいと要望されている。案を理事長の方で考えることとなった。
 - ・12月9日（金）の若手会議の集まりが悪いので企業の方には是非お声かけいただきたい。
- 18. 今後の予定
平成 29 年度第 3 回常任理事会、平成 29 年度第 3 回理事会の開催日については、後日メールで調整することとなった。

※印は決議・承認事項

以上